

意見書案第1号

つくばTX沿線エリアの県立高等学校の定員増を求める意見書

上記の意見書案を次のとおり提出する。

令和7年6月27日

提出者	つくば市議会議員	小村政文
賛成者	つくば市議会議員	青木真矢
	〃	渡辺峰子
	〃	山中真弓
	〃	高野文男

つくばTX沿線エリアの県立高等学校の定員増を求める意見書（案）

現在、茨城県が進めている県立高等学校改革プランの実施プランII期（以下「実施プラン」という。）では、県内を12のエリアに分け、本県の高等学校教育を取り巻く社会の変化や、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等の多様化に適切に対応することとしている。

12エリアの中でもつくばTX沿線エリアは、牛久市、守谷市、常総市、つくばみらい市と当市の5市で構成され、実施プランで示されるエリア別の中学校卒業生数と県立高等学校入学者数（全日制）の見込みにおいて唯一、いずれの生徒数においても2030年度まで増加することが示されている。

しかし、当該見込みにおいて中学校卒業生数は2023年度と比較し524人増、入学者数は282人増となっており、卒業生数の増加に対して入学者数が追いついておらず、入学率は2023年度の50%と変わらず、2030年度も50%の見込みである。

茨城県は、つくばTX沿線エリアの生徒数増に対し、2019年に上記実施プランを含む県立高等学校改革プランを策定後、2023年度にはつくば工科高校からつくばサイエンス高校への改編や2学級増、科学技術科の設置が行われた。2024年度には牛久栄進高校の普通科1学級増や、筑波高校への進学アドバンスコースの設置など進学ニーズへの対応策が講じられ、さらに2025年度からはつくばサイエンス高校への3学級の普通科の再編と段階的に県立高校の改革が図られてきた。これらの改善には深く感謝している。

今後もつくばTX沿線エリアで中学生数が継続的に増加することを踏まえると、つくばTX沿線エリアにおける高校進学を受け皿確保は喫緊の課題であり、受験生への公平な進学機会の確保や、隣接エリアへの影響を回避するために、当エリア内での着実かつ戦略的な定員増が不可欠である。

例えば、つくばTX沿線エリア内でも既に改善措置が講じられてきた学校（筑波高校・つくばサイエンス高校）に続く形で、竹園高校の定員増なども現実的な選択

肢として注目されている。既存の教育水準の高さ、立地の利便性などからも、地域の中学生の進学先として高い需要があり、定員増により近隣エリアでも公平な進学機会を確保できるなど波及効果も見込まれる。

以上の理由から、竹園高校の募集定員を8学級から10学級に増やすことを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年6月 日

つくば市議会議長 黒 田 健 祐

(提出先)

茨城県知事

(提案の理由)

茨城県に対し、竹園高校の募集定員の増加を要望するため、意見書を提出するものである。